

日本WHO協会×JICA海外協力隊ともに60周年の集い

医療機関における外国人支援

地方独立行政法人りんくう総合医療センター

患者サポートセンター副看護師長 兼国際診療支援センター

青年海外協力隊 平成13年度 特次隊 メキシコ 看護師

新垣智子

こどものお母さんたちと看護師の違い？

- ▶ 経管栄養（注入）
- ▶ 呼吸器管理
- ▶ 吸引・吸入
- ▶ けいれん発作時の対応

これらすべては、実はお母さんたちの方が技術は、はるかに上手。
新人時代はよく教えてもらった。

お母さんたちと私の違いは「免許があるかないか」であることに気付く。
私にとっての「看護」は、特技なのではないか。

電車の吊り広告に**青年海外協力隊募集の広告**を目にする

メキシコ・オアハカ州

Estado de Oaxaca, México



1. 人口 約350万人【そのうち先住民37%】
2. 面積 196万平方キロメートル（日本の約5倍）
3. 州都 オアハカ市
4. 民族 18民族

Mixtecos, zapotecos, triquis, mixes, chatinos, chinantecos, huaves, mazatecos, amuzgos, nahuas, zoques, chontales de Oaxaca, cuicatecos, ixcatecos, chocholtecos, tacuates, afroamericanos de la costa chica de Oaxaca, tzotziles



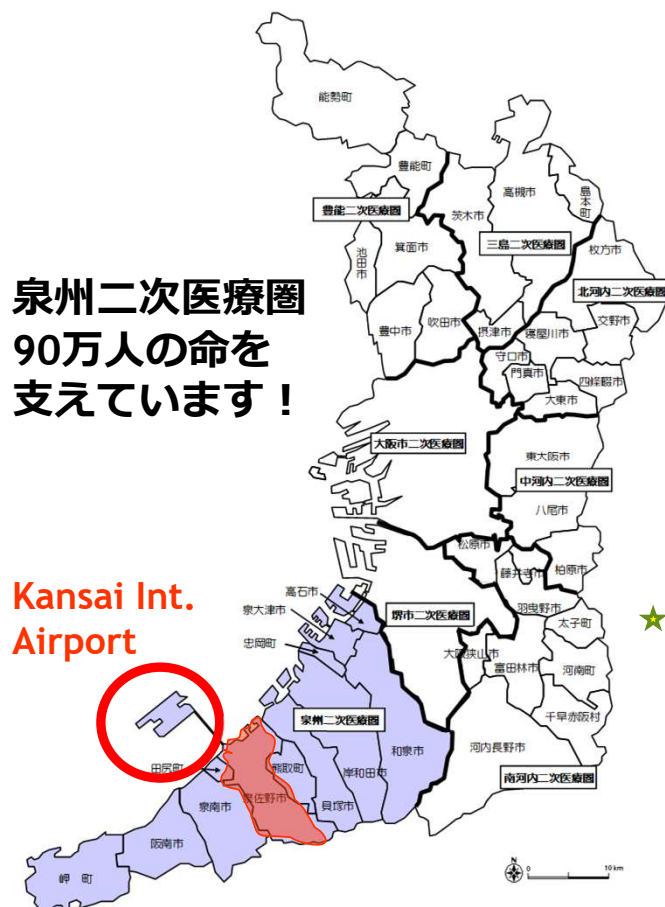
スペイン語勉強しながら考える～病気が教えてくれたこと～

- ▶ 「できること」と「やりたいこと」は別に考える。「できること」を探す。
➡ 「やらないといけないもの」が見つかる
- ▶ 今、自分のいる位置はどこか考える。
二つの形を、二元軸に考える。「活動フィールド」と「ライフステージ」
- ▶ 海外経験は大きな財産。一人ひとりが日本でできることは多い。



Volunteerの意味を再考する。スペイン語では”voluntad”：自発的活動
りんくうでの通訳ボランティアに応募する

地方独立行政法人りんくう総合医療センター



泉州救命救急センター



泉州広域母子医療センター



災害拠点病院



感染症センター

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター 病院年報より



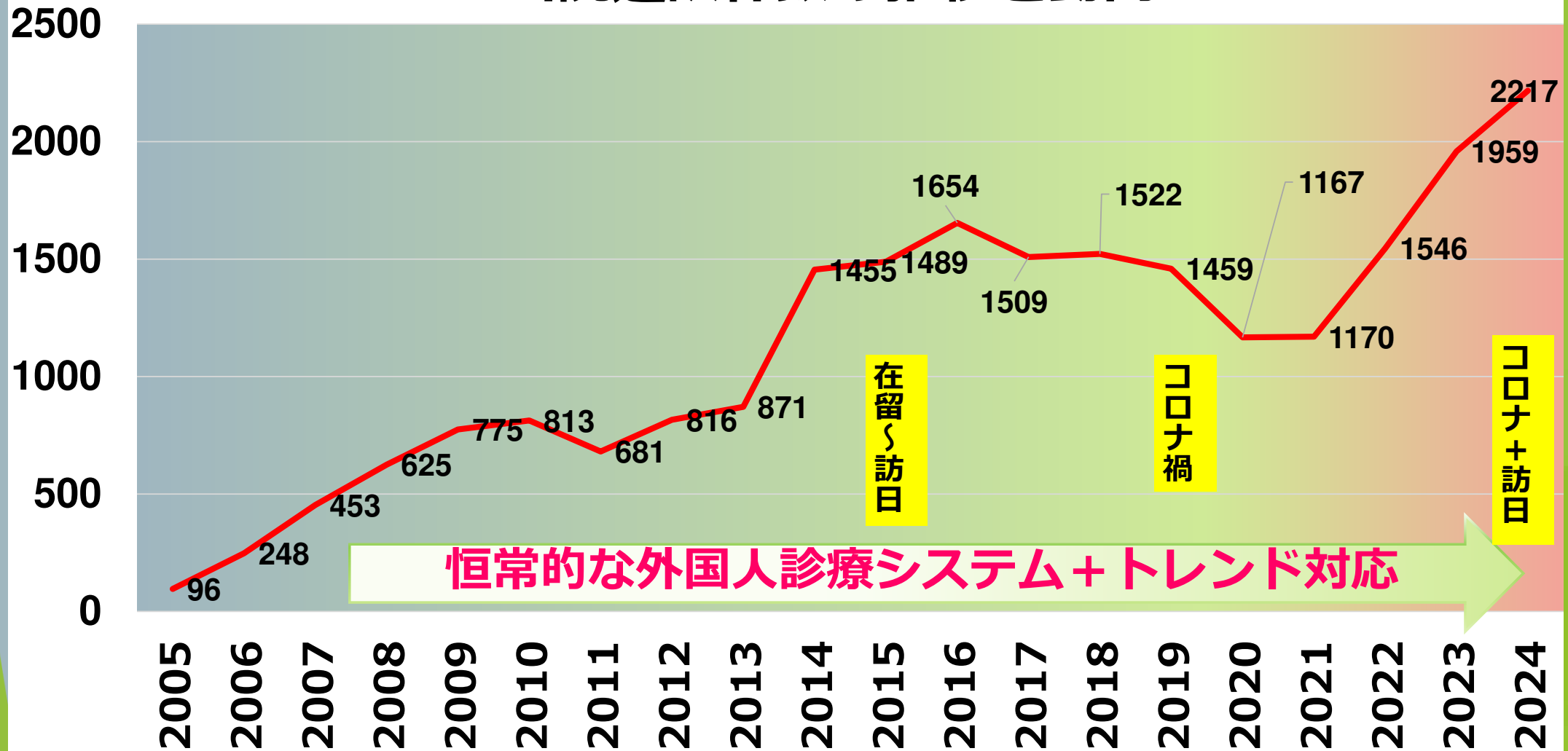
関空橋

りんくうプレミアム
アウトレットモール

大阪公立大学
獣医臨床センター

りんくう総合医療センター

当院通訳件数の推移と動向



当時の国際医療の問題点

- 医療現場は**外国人アレルギーが多い**

➡外国人患者への過剰反応（良くも悪くも。）

- 医療通訳に対する**認知度の低さ。**

- 通訳者の医療に対する**過剰な誤解。**

- **医療通訳はボランティア**が当たり前の医療現場

- 通訳レベルは高いものが要求され、**専門性が必要**

- 通訳の質を評価する場所がない

- ボランティア通訳の**善意のみに頼る。**

➡薄謝で、生計が成り立たない。持続可能なサイクルは不可能

今までの活動

- MEDINT看護部会 医療通訳研究会MEDINTとのコラボ研修
 シンポジウム
 外国人患者対応能力向上研修など
- JOCA 協力隊出前講座×国際看護学
- りんくう医療通訳者向け現任研修
 ➡りんくう通訳者が多言語医療通訳講座としてスタート
 （大阪大学医療通訳コースの前身）
- 日本国際看護師NiNA認定部会

今やっていること

2024年度世界の人びとのためのJICA基金活用事業「地域で支える外国人の健康問題」

①外国人症例検討会の開催

日本国際看護師のネットワークづくりと研鑽の場を作る

日本国際看護師NiNAが点で活動する人たちで困った症例を検討する。

②外国人患者対応能力向上研修の開催

地域で働く医療者の外国人患者対応能力を底上げする

大阪大学大学院人文科学研究科複言語・複文化共存社会研究センターとの開催

③NiNAシンポジウムの開催@九州大学2025年12月6日（土）

「危機的状況下における外国人患者・家族へのケア～理論と実践が融合した精神的支援～」

次に考えていること

りんくう総合医療センターの総合案内（よろず相談）から見てきたこと

➡患者の健康問題に対する生の声が聞けたため、本当の問題が浮き彫りになってきた。

- 支援の限界点
- 社会保障からこぼれ落ちる存在
- 身寄りのない人の終末期など

➡地域外国籍住民や地域支援者の存在

- 日本で生きる若者の社会参画
- 地元、西成区の共助精神（利他的行動）

➡異なるもの同士が和をもって暮らす異和共生の実現

- まちの保健室 at にしてん（西天下茶屋）カフェ？
- まちの保健室 at 銭湯？

まとめ

- 幼少期のダイバーシティが根っこにある。
- 実は専門職としての動いたことはごく一部。
- 一人ではできないかもしれないが、みんなで協力したらできることもある。
- 今後は少子高齢化を解決するには、外国籍住民がキーになる。
- 健康問題の解決場所は、生活圏内で可能。
- 異和共生を目指したい。